



風俗文選 二

5
4470
2



5
4470
2

草書

福

昭和九年
十月一日
購求

南都賦

汝邨

鎌倉賦

許六

吉野賦

文州

松嶋賦

芭蕉

富士賦

嵐蘭

湖水賦

李由

前磨山賦

支考

後磨山賦

去來

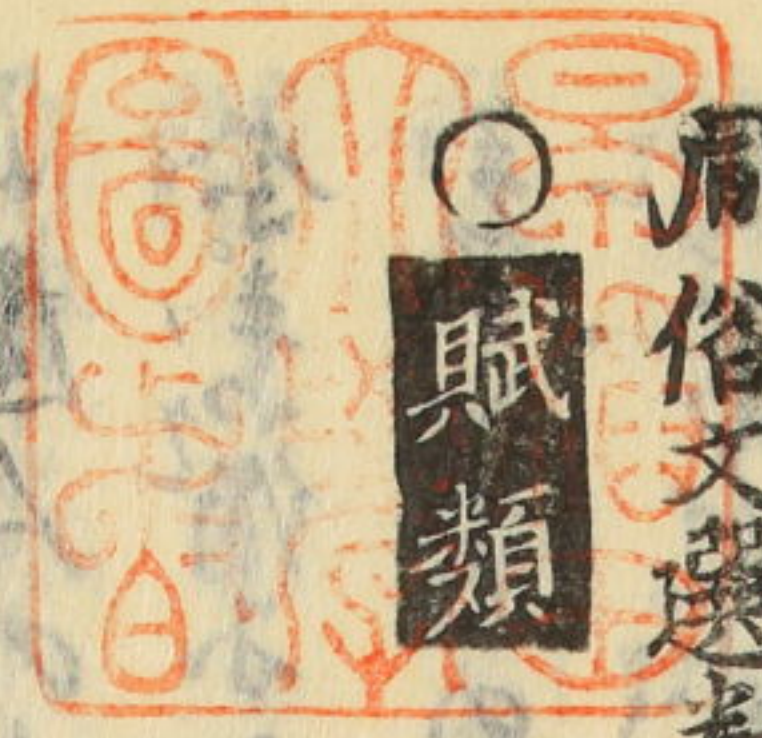
風俗文選卷之二

五老井 許六選

賦類

南都賦

汝邨



〇南都賦より一かゝるの歌余さすい之を山乃麓かむ老唯天
 聖和洞ニ在る原於まよひば系は移るる大宮處六佛處
 佛神をあらがてしてまじを輔く。若くは於中らん月日の文。電
 殿尾上の文。鏡乃神々橋の廣徳をよみ。浮乎おま
 藤原立乃始と云。氷室奈川。東大寺の八幡二月堂。小
 若狭井あり。二月堂。中身も。物持ら。久家の入らおれを
 ぞめ。大川の折行ら。源の形おれ幕を張。真福寺と

芳野賦

文州

千代の御をよき皇とつからしむるは、
 山川里原の御を詠ふ。二十一代の御を
 二百七十余為に家々の集。お終類。遠
 近の御を詠ふ。貞室老人乃にれつ
 ちきみ乃に詠乃に祈りて。花の
 結和尙の御を詠ふ。山川里原の御を詠ふ。
 山を詠ふ。山を詠ふ。山を詠ふ。山を詠ふ。

千代の御をよき皇とつからしむるは、
 山川里原の御を詠ふ。二十一代の御を
 二百七十余為に家々の集。お終類。遠
 近の御を詠ふ。貞室老人乃にれつ
 ちきみ乃に詠乃に祈りて。花の
 結和尙の御を詠ふ。山川里原の御を詠ふ。
 山を詠ふ。山を詠ふ。山を詠ふ。山を詠ふ。

そくさくし乃名よ。若中しつる花をさうぞうたせ
とも極まこ。程届をつまぬしつこるみる終。

松嶋賦

色蒼翠

ともしつるぬらしふきり神と。松嶋を杖葉才一乃好此
しつ河を西湖と船を。あまの海を入く。江乃
中三里。漸し江み海をさうふ。七十二里。数百の嶋と
船川とわら天を指。ぬももわら波は旬旬。あまの
二さよかさなり。さうよさうくうたよとん。右よはし
かる。肩らあり抱ふあり。児孫おしむる。つとし。内
さうどかぬし子。産時。うしさう。半。嶋。地。一。ま。内

裏海。溪川。一。ま。色。さう。あま。乃。少。舟。満。つ。ま。く。
辭。江。の。夢。く。は。れ。で。な。り。し。よ。み。ま。し。使。を
か。一。ま。の。松。心。を。さ。と。な。り。て。松。の。ひ。ま。し。一。葉。を。葉
く。羽。を。さ。い。一。枝。を。さ。う。あ。ま。の。葉。の。末。も。松。の。は。さ。り。く
乃。さ。う。と。出。し。一。程。回。の。む。川。中。乃。る。ふ。ま。海。の。松。
表。隅。の。松。松。の。境。の。名。と。な。り。て。さ。う。り。志。が。り。田。の。浦。と。
地。の。お。め。林。あり。神。お。乃。か。た。竹。葉。文。治。之。子。泉
乃。之。神。奇。進。し。記。と。旅。時。が。磯。を。地。つ。ま。よ。く。雲。居
標。乃。別。家。お。あり。よ。坐。禅。石。陽。岩。寺。の。柳。松。さ
町。松。入。乃。の。建。立。當。村。之。十。二。世。の。む。り。一。ま。登。平。安。寺
か。家。一。つ。入。る。海。の。ほ。閑。山。と。ま。ほ。停。車。政。家。林

すやりの白石シラヒシと云ふ。四石湖シラヒシと一詩樹シラヒシ一本一本はし
奥の海奥は人家人家おむる。奥の表奥と云ふ。積崎積崎置
山山馬馬はのハハ海海はく島島ハハも。此此粟粟はくわ海海回回の
平平海海ハハ蛇蛇柳柳あり。入入亀亀出出龜龜の二二海海ハハ柳柳江江
乃乃中中ハハ海海ハハ山山ハハ比比良良四四海海のの取取手手ををハハキキ。積積崎崎
吹吹乃乃新新ををくく川川と。松松ハハ海海回回をを柳柳乃乃積積松松ハハ幸幸崎崎
千千ハハ此此也也。蓮蓮ハハ支支那那ハハ石石と云ふ。草草葉葉ハハ四四川川ハハ
肥肥ハハ柳柳大大根根。兵兵ハハ草草ハハ鴨鴨牧牧屋屋。虫虫ハハ次次絹絹と云
布布ハハ湖湖と云ふ。海海ハハ海海祝祝ハハ作作里里也也。白白於於石石。亦亦木木材材
本本庭庭石石と云ふ。海海ハハ海海ハハく。山山ハハ敷敷石石ハハ大大河河
乃乃白白名名。是是方方解解。石石也也。伊伊吹吹乃乃赤赤ハハ麦麦也也。艾艾石石灰灰也也。

種種乃乃類類もくも。岩岩生生。日日也也。根根ハハ金金津津乃乃根根也也。と云ふ。
きき焼焼ららくくふふ草草乃乃も也也。保保元元丹丹。向向くく系系。竹竹田田系系。
解解りり并并餅餅。もも也也。投投りり。籠籠村村海海。四四十十九九張張乃乃ききをを海海。
池池のの川川。池池針針。ちち山山靴靴。固固本本洪洪炮炮。其其作作判判のの小小名名也也。
是柴田勝家之製。端金の子ハ。作々木家ノ具足層也。其子孫ノ
軍中兵糧ノ助トス。着農父ニテ于今着之。
又又津津と云ふ。花花彈彈材材ハハ飛飛。後後倉倉のの生生食食也也。ハハ小小名名也也。
くくわわくくわわ。海海中中ハハ乃乃獵獵奴奴也也。尾尾上上ハハ乃乃論論也也。と云ふ。
そそと云ふ。石石恒恒つつと云ふ。阿阿比比人人をを天天下下ハハ用用也也。白白蛇蛇のの津津
神神ハハ海海と云ふ。七七と云ふ。乃乃きき原原ををりりんんと云ふ。後後津津のの津津
と云ふ。神神ハハ海海のの津津廟廟也也。もも也也。乃乃告告乃乃神神ハハ海海と云ふ。と云ふ。
人人ハハくくと云ふ。更更ななわわ。海海のの津津と云ふ。海海のの津津と云ふ。と云ふ。

天

天

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of the characters on the left page. The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. The characters are fluid and connected, characteristic of cursive calligraphy.

風俗文選卷之三

Large, bold, black calligraphic characters in a stylized, blocky font. The characters are arranged in two vertical columns. The right column contains the characters '高' (tall) and '山' (mountain), and the left column contains '木' (wood) and '木' (wood). The characters are thick and have a textured appearance, possibly due to the ink or the paper's grain.

關 木 高 木

木 高 木

木 高 木

鼠賦 チズミ

去來

旅賦 リョ

許六

楊揮豆賦 ヤウキトウ

毛純

四採廬賦 シサイロ

李由

閑居賦 カンキョ

汝村

招魂賦 セウコン

支考

附譜

百鳥譜 ヒヤクニシ

百卷譜 ヒヤクセン

山水譜 サンスイ

風俗文選卷之三

五老井 許六選

賦類附譜

鼠賦并引

去來

此賦以五音相通假名字為韻

鼠一乃名々々々々々又よめとてしよんたつてさるる
 あり四人の鼠を鼻につまみして大なる鼠の鼻をさす
 さるるすよんていし山椒の眼小豆乃鼻齒々々々々
 きて小神も懸へく耳は耳の青のめしよんていし
 尾をさすいし籬のさやとなすさるるさるる背腹の
 さるるめさるるさるる濃も深公せわをゆゆ夜もて
 唇もさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

又ゆい。皆北條乃懐けり。家羽。白川の田代所
とぞゆ。奥羽の事と共く。さる彼乃甘きまよ。長
たがらんとあつ。あつと山乃夕原よ。吹浦と海
ぬ作は。横よ天乃川よ。ゆた乃被とさる。は
そゆ。や。路乃二見を法つとて。七石。平余程とゆ
と。あつ。うが。屋敷。乃。力。量。派。國。ド。て。一。律。の。領。と。あ
く。風。流。と。あ。さ。な。は。い。色。を。意。を。な。と。さ。ら。お。終。の
報。復。よ。乃。お。時。は。乃。旅。十。神。の。終。と。明。と。て。渡。と。こ
何。し。果。の。求。め。い。無。と。も。内。統。よ。ん。や。り。わ。俗。決。と。あ
つ。た。お。賊。子。段。と。の。次。あ。れ。い。一。團。乃。細。る。ま。あ
花。乃。類。よ。あ。ら。う。と。

「藤店の上段よ書院。藤屋。す。り。だ。の。あ。は
大。庭。よ。や。ぐ。の。け。く。門。は。乃。入。湯。桶。さ。り。け。て。衣。と。わ。
庭。よ。小。砂。の。さ。ら。い。お。ぐ。の。お。も。り。ぶ。い。一。び。女。の。そ。え
あ。は。法。好。と。も。う。と。お。ち。板。末。ハ。あ。て。隅。く。よ。ぞ。思。を。そ
ず。天。井。禊。々。あ。も。り。よ。ふ。さ。い。づ。お。洗。紙。灯。ら。う。く。紙
と。り。ま。ん。ん。乃。平。し。つ。あ。の。よ。遊。ご。わ。積。貫。賣。車。轆。車
せ。ま。ん。や。り。い。の。枕。と。く。さ。き。ん。の。死。寐。以。れ。れ。る。さ
一。お。夢。よ。ま。を。と。破。く。せ。ま。ハ。七。つ。と。い。い。く。火。と。海。と
藤。人。と。あ。う。と。も。よ。く。寐。い。お。お。あ。け。く。あ。さ。め。く。は。お
か。ま。り。

大。名。乃。寐。る。も。ね。く。る。と。さ。す。

何れかある人といふ名もあらずなりけり也。是れ乃
^ハ過堂の堂也。後久をよみて。回廊の別を情に。隔田
^ハ川乃名佛を尋て。かよれ古塔よれば。今ま
^ハ古塔の人。孫娘の情を垂して。此娘の腸をさうも。
^ハ能自ハ白川乃行をよみて。二もいみちのくよあし。ま
^ハ不ニおち乃二分を求めん。すやたあつとゆふ者。
^ハ自堂を老人さわ。東海屋のつすも。志しぬ人乃。即娘
^ハよあし。くまう。いん。翁の老。年。の。度。了。
^ハと。い。ま。也。

揚揮豆賦

毛純

ソラキドノ
^ハ系小豆。是れ能よ。一。依よ。約。二。に。い。し。あ。て。毛。乃。ら。う。乃
^ハ仇名とれ。神は乃。粥。ハ。瘰。を。け。ぞ。也。卯。月。の。元。日。也。
^ハ丹餅。う。う。り。お。右。角。と。畧。一。て。今。根。乃。つ。き。色。ハ。ぼ。ん。と。
^ハとの。い。り。く。ハ。一。守。い。む。人。を。秋。の。又。お。し。終。ハ。か
^ハ君とぬ。う。て。秋。の。い。し。め。さ。被。て。一。わ。池。流。乃。ハ。流。也。
^ハを。と。し。り。冊。し。たり。饅。頭。乃。度。韻。め。く。付。く。ア。一。と。い。
^ハハ。流。乃。う。つ。ハ。お。識。乃。こ。び。う。け。ら。亦。致。と。も。い。ハ。也。
^ハ深。更。と。ハ。住。居。人。乃。名。づ。を。う。ろ。名。一。一。て。あ。つ。つ。き。と
^ハ解。謎。一。一。一。蓋。華。草。一。一。君。臣。乃。義。と。也。一。一。一。セ。

そをさぐるも乃ぞとふめてかきやりたりぬ。孫の備
きふる度なる。一。は南乃士見のいふより早なる。をの被が
友を屋下ふんぶるもとや。とむを法。一。

一。名をいへどもお名はあつたれとのち。鷓鴣乃一名を泥
鷓鴣といひ。倭鳥ワニトリも。行こよとつよもあつて。おつたが
小ごりきりや。とつはと。噂はたや。涼。かの有を
このすま。一。らぬ。おつたえ。おつた。びん。か。あな
かな。ま。枝乃。屋を。と。つ。被む。一。

世を信とつよもあつて。ま。秋乃。さ。おを。ま。つ。枝
よ。又。さ。り。一。ま。被む。も。果は。く。よ。お。お。つ。は。ま。
ま。ま。く。か。なり。め。た。類。も。あ。つ。枝。き。む。一。噂。お。ま。の

あつしりく。公。治。長。が。ま。ま。な。り。た。び。さ。る。も。れ。な。り。一。説。一。ま

寝ヲ好鳥也其餅ハ菰麦コモコメ 白米ノ類。饅頭ハ嫌ナリ。 傑トウよ。さ。る。も。れ。な。り。一。ふ。せ。り

ありて。も。も。又。ゆ。な。り。一。ま。形。よ。ま。ま。く。つ。る。隆。鼻。号。を

ま。ま。よ。人。乃。あ。を。ま。ま。一。慶。岩。高。雄。ノ。山。ニ。在。テ。迦。後。類。也。
杉ノ木ニ藤ル鳥ナリ。

かの。美。ま。お。や。被。ま。れ。が。ま。ま。ハ。ま。ま。く。つ。る。ま。の。幅。幅。や。つ。ま
ま。お。つ。り。ま。ま。く。つ。む。ま。

百花譜

許六

心。あ。世。乃。人。の。花。さ。右。人。の。實。丁。ま。ま。ま。れ。つ。づ。ま。乃。時。の。花
實。系。備。乃。世。あ。ら。む。

梅乃。况。骨。く。ら。る。ま。の。陰。ま。ま。乃。中。よ。似。く。ら。お。い。あ。じ。に。

五月一陽乃乞。燦々たる江南を玉妃。外えたるは
しり。生を獲とおぼす。よる。一。風流のほしみ。終る。是
とも。ま。こ。ん。て。い。う。若。野。も。も。な。ど。い。ふ。よ。遊。君。乃。ん。む。
あ。い。ま。を。ね。い。ま。と。い。う。心。より。相。火。乃。ま。ぶ。ら。し。か。こ。ち
瘦。き。し。の。海。も。狭。く。き。の。よ。乃。家。飽。き。る。い。わ。い。ひ
ま。い。は。衣。類。潤。膚。さ。ど。よ。き。い。同。も。か。ま。は。人。な。し
お。の。終。合。々。れ。男。あ。ま。ま。も。も。思。懐。なる。よ。い。す。わ。ぬ。を。鏡
お。さ。り。一。端。心。を。い。て。げ。う。じ。ぎ。う。思。乃。一。言。ふ。百。海
乃。面。も。法。か。い。こ。わ。信。強。乃。利。よ。利。を。か。ま。り。や。り。し
聖。し。る。い。う。比。せ。お。乃。本。る。を。遊。く。あ。ひ。ん。信。其。み
明。乃。細。を。ま。も。も。も。形。あ。す。き。沈。海。乃。細。も。小。さ。い。も。

さ。ん。す。い。て。ま。め。乃。病。覚。も。や。い。一。時。多。も。り。く。て。世。を
都。よ。い。ま。み。因。完。れ。い。い。と。ま。も。も。人。の。似。を。い。は。
紅。梅。と。い。ま。い。一。度。能。者。系。乃。心。を。知。し。東。園。の。光。を
く。れ。ら。ね。ま。い。も。や。ぐ。蒼。く。も。も。む。む。も。て。い。わ。也。く。い。
お。病。へ。る。何。と。言。う。わ。よ。ま。う。を。く。ば。か。た。る。色。と。ま。い。
あ。い。ま。の。中。に。こ。れ。お。高。乃。大。躍。よ。は。い。か。ら。い。ん。な。い。も
凡。俗。を。は。ら。わ。ま。も。も。心。也。と。す。也。
樹。々。全。盛。乃。傾。城。なる。天。賦。乃。凡。も。并。こ。こ。う。の。況。依
れ。い。ま。月。の。あ。い。く。し。乃。一。点。も。も。花。なり。
海。堂。の。句。一。く。は。を。ぬ。ま。も。も。皆。の。所。乃。た。ま。と。作。が。沈。海
ひ。の。こ。り。い。ふ。世。中。種。と。の。ま。ま。と。也。能。者。ふ。よ。い。い。

二

四

侍りしうらむ侍人乃面乳もさるしうらむれがうれしきを
あまねて口を閉ていひ。

風也とていひは是もけりしうらむれ給鉄骨と頼
ひ人の眼と尋りし中り侍れどもさふ強かしてさるま
えれもあつどもあつたま乃い中りさるる彼は女
乃スモ李倉口りしうらむれ。

女言ふしうらむれもあつたま。新屋中よと法明代破
戒よめはハ。女言ひ乃二字よなりけりあつたま。新屋の月
よめはあつたま。菊よれとかきし侍りしうらむれ。
やまくれしうらむれ。女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女
あつたま。女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。

うらむれと探みく。小あそ男の髪とわらうし是と此
危しうらむれ也。大幸ハ女色しうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
いへき。あつたま乃うらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。

侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。
侍りし女言ひ侍りしうらむれ。侍りし女言ひ侍りしうらむれ。

やうくたゞふる此の硬さよ引ずる時な体く石と
しむるも折曲まりたふハ驚多し一て中ハ死と云ふ
一と内乃変化を云ふ一山乃深源を云ふ一山容
相違さふ不ハ寺觀樓閣の層層を云ふハ水野山名の
向ハ酒釀乃青尚を説き一ハ神王摩詰が中
水乃賦の法式なるべ一やましむあそがかりあふを
一神と説ある不ハ天守を倭守一神社ある也一と
も指と云へ一山石水亦ともによりくハ極ハ何
も和れと保す一と神を和漢各別乃沙汰を云へ
一富士ハ下野と云く系大なりと云へ一松尾ハ東也
一と云ふ系乃一と云ふ一系乃一系を云へ一と云ふ

九世ハ系乃分一と云ふ一難ハかろべ一海ノ岬石ハ
まよまび一也。左野花田ハ花やままび一。巨谷ハ林之
て面ハく。池田ハじり一と云ふ一つと云ふ一と云ふ一
ハ系乃分乃と云ふ一と云ふ一。前乃保。和の江波と云ふ
一と云ふ一と云ふ一。山神乃西側ハ十倍と云ふ。和画ハ
一と云ふ一。帆ハある舟を云ふ一と云ふ一。遊人乃舟の事と云ふ
一と云ふ一。活ハ活舟乃結と云ふ。切流ハ合と云ふ。ありし
丹青辨ハ彩也。苗白細微ハ文と云ふ。奴乃類。録
ハ墨と云ふ。傾城の層ハ丹を合む一と云ふ一。神を云ふと云ふ
と云ふ一と云ふ一也。假令丹をハ海とも。活中城ハ系

色はすいそく、ゆゑ乃部として、きん人の格式なるべし。
 ちてて画圖をうくまひしこれか先見推をさるるべし。
 巨入画中詩話中の画といふは、よふ下なること也。世に
 粉本をもつ者、画巻を切りて、知て、吟詠を志するは、
 畫工ハ思くすべしと知て、画巻をうくまひしをさるるべし。
 ちてて、ゆゑ乃部とて、画巻をうくまひしをさるるべし。
 又、あつらひの。

色はすいそく、ゆゑ乃部として、きん人の格式なるべし。
 ちてて画圖をうくまひしこれか先見推をさるるべし。
 巨入画中詩話中の画といふは、よふ下なること也。世に
 粉本をもつ者、画巻を切りて、知て、吟詠を志するは、
 畫工ハ思くすべしと知て、画巻をうくまひしをさるるべし。
 ちてて、ゆゑ乃部とて、画巻をうくまひしをさるるべし。
 又、あつらひの。

